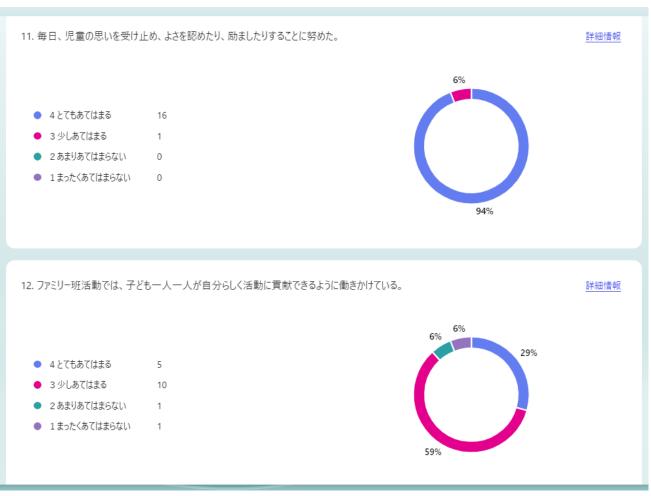
1. 知識や技能が定着するよう、授業に全児童参加の対話的な学び合いを各単元1回以上設定した。 詳細情報 6% 4 とてもあてはまる 10 3 少しあてはまる 6 35% 2 あまりあてはまらない 59% 1まったくあてはまらない 1 2. 思考力・判断力・表現力が身に付くように、授業に全児童参加の対話的な学び合いを各単位1回以上設定した。 詳細情報 6% 4 とてもあてはまる 3 少しあてはまる 8 2 あまりあてはまらない 47% 1まったくあてはまらない 1 3. (「思・判・表」の評価のために)ノートや作文、グループでの話し合い、作品の制作など多様な活動を評価の対象とし、多面的・多角 詳細情報 的に評価した。 6% 4 とてもあてはまる 11 3 少しあてはまる 2 あまりあてはまらない 0 1まったくあてはまらない 1 4. 自己の考えを深められるようにしたり、児童の対話的な学び合いの場面を設定したりすることで、児童が主体的に学ぶように促してい 詳細情報 る。 4 とてもあてはまる ● 3 少しあてはまる 53% 2 あまりあてはまらない 0 1まったくあてはまらない 0







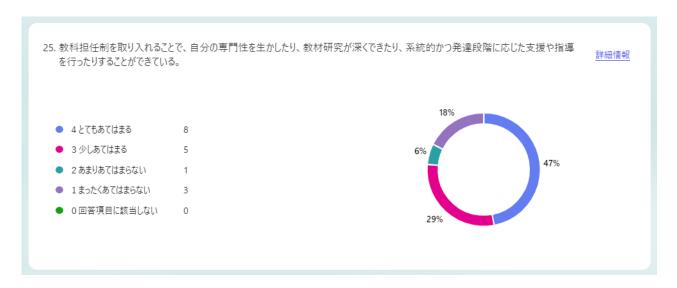






21. 外遊びを推進したり、誰もが楽しめる体育の授業づくりに努めたりしている。 詳細情報 24% 4 とてもあてはまる 8 3 少しあてはまる 3 47% 2 あまりあてはまらない 12% 1まったくあてはまらない 4 0回答項目に該当しない0 18% 22. 学校経営方針に沿った教育活動を発信できるよう、学校HPを週1回以上更新したり、定期的にお便りを発信したりしている。 詳細情報 6% 4 とてもあてはまる 35% 3 少しあてはまる 35% 2 あまりあてはまらない 6 1まったくあてはまらない 1 24%





【学校評価】教職員アンケートの結果からの考察

全体的に「とても当てはまる」「少し当てはまる」の割合が多い。先生方が各項目に真摯に取り組んできたことが伺える。その一方で、肯定的な回答が低めだったのが「図書」「ICT」「保幼小の意識」「ホームページ関連」「外部との連携」だった。もう少し詳しく見ていくと、以下の点が挙げられる。

【成果】

- ・設問 1~4 から教員は知識・理解、思考・判断・表現が身に付くように学習を行い、一人一人を認めるように働きかけている。また、子どもたちが安心して過ごすことができるような学級風土を作ろうとしていることが読み取れる。
- ・設問9から教員は道徳の授業を確実に実施し、児童の創造性が高まるように体育祭などの各行事への取組を工夫したりしている。

【課題】

- ・設問7からこども園との交流活動への肯定的な回答が低いのは、交流活動が限られた学年になってしまっていることが考えられる。
- ・設問 22 からすぐーるなどでの定期的な連絡は行っているが、子どもの様子が伝わるようなホームページの更新などの情報発信への意識が低いところがある。
- →児童には学年だより等を事前に説明するような工夫をしていく必要がある。
- ・設問 6 から ICT 活用の捉えが教員によって異なることも考えられるが、タブレットを活用して行える 学習を行えていない現状があると考えられる。
- →デジタルを学習基盤とした授業改善が必要である。
- ・設問23から地域人材を活用するなどの地域と連携した学習を実施できていないことが読み取れる。
- →年度末から年度初めに計画する必要がある。